

# 無名抄 下

相山女学園大学デジタルライブラリー

相山女学園大学図書館

書

名

抄

乙



無名抄目錄下

賴政奇道よとの事

後成自煥奇事

後惠秀奇事

隱作者事

隆信定長一雙事

後成女宮の事

會奇事

武部志保勝事

後惠定元事

後名事

德輔弘文事

後惠新後成秀事

後成法橋奇事

通目奇事

大輔小侍一雙事

具親奇事

宗蓮頭昭事

出代古事

取古事

清浪名事



9081078

わさりのさくらんぼ別事  
為仲方さくらんぼ別事  
小野小町事  
うらみつとさくら事  
頼實さくら事  
さくら移の事

あさひとさくらんぼ必方事  
案さくらんぼ成失事  
代さくらんぼ中秀さくらんぼ事  
非弁仙言と別さくらんぼ事  
絶意さくらんぼ舎供事  
後成入道物籍事  
依秀白心とさくらんぼ事  
頼實さくらんぼひささくらんぼ事  
弁合不可能法事  
前さくらんぼさくらんぼ事  
近年舎狼籍事

北政新道よまのり事

後惠之北政言のり事  
てあはれなりとさくらんぼ事  
けつさくらんぼのひささくらんぼ事  
あさひさくらんぼのりさくらんぼ事  
うらみつさくらんぼのりさくらんぼ事  
とさくらんぼのりさくらんぼ事  
わさりのりさくらんぼ事  
いざなつさくらんぼのりさくらんぼ事  
かみさくらんぼのりさくらんぼ事  
さくらんぼのりさくらんぼ事



あつたかゝるものも亦よくひくくも  
とゆゝとわたりてこれとよりく

後惠難後女考前書

如の弁<sup>たが</sup>亦よきとていふ一の句は  
う念<sup>たが</sup>ありありとこれかといかりわら  
きとさといひあてめとていふ身は  
らんしとわらとていふとあよくいふ  
ゆもいふといひとゆえとあはれ<sup>たが</sup>  
ふふとさといひとわらといふいふ  
とあわくありわらと

後惠難考前

其次、我ながら中

みりて山とさるりの言ふれを  
ありとていふら志はれ  
これとあんのぬくひよきんとありふた  
なるの世のまをりあつるあつるふ人  
わらわくこといひとわらたふと

後成清補前判皆有偏處考

頭<sup>なづ</sup>取<sup>り</sup>はくわ<sup>り</sup>亦<sup>も</sup>判<sup>は</sup>後<sup>に</sup>女<sup>は</sup>清<sup>補</sup>考  
吾<sup>が</sup>女<sup>は</sup>亦<sup>も</sup>さ<sup>ら</sup>に<sup>に</sup>偏<sup>處</sup>あり<sup>判</sup>考  
か<sup>ら</sup>さ<sup>ら</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>つ</sup>る<sup>は</sup>後<sup>に</sup>女<sup>は</sup>  
我<sup>は</sup>亦<sup>も</sup>さ<sup>ら</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>つ</sup>る<sup>は</sup>

わらうす世の中れまらひみれ<sup>て</sup>きて<sup>き</sup>  
いついふにやういふれ<sup>て</sup>或<sup>は</sup>清<sup>く</sup>補<sup>つ</sup>物<sup>は</sup>い<sup>ふ</sup>相<sup>づ</sup>  
ひ<sup>ら</sup>う<sup>く</sup>清<sup>く</sup>座<sup>を</sup>なるやうして偏<sup>は</sup>た<sup>つ</sup>り<sup>ま</sup>す  
け<sup>ゆ</sup>と<sup>き</sup>い<sup>ふ</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>ま<sup>の</sup>つ<sup>ら</sup>う<sup>の</sup>わ<sup>ら</sup>  
か<sup>ら</sup>も<sup>あ</sup>れ<sup>が</sup>き<sup>き</sup>あ<sup>わ</sup>や<sup>ま</sup>ら<sup>う</sup>と<sup>て</sup>  
わ<sup>ら</sup>ひ<sup>ら</sup>ん<sup>き</sup>れ<sup>れ</sup>の<sup>ふ</sup>ま<sup>の</sup>う<sup>ら</sup>と  
あ<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>ひ<sup>ら</sup>ん<sup>き</sup>れ<sup>れ</sup>の<sup>ふ</sup>ま<sup>の</sup>う<sup>ら</sup>と

隠作かくしとます

あか<sup>く</sup>い<sup>ふ</sup>あ<sup>を</sup>と判<sup>じ</sup>り<sup>ま</sup>る<sup>作</sup>とわ<sup>ら</sup>く<sup>た</sup>  
いつい<sup>ふ</sup>う<sup>ら</sup>い<sup>ふ</sup>う<sup>ら</sup>い<sup>ふ</sup>う<sup>ら</sup>い<sup>ふ</sup>う<sup>ら</sup>  
人<sup>を</sup>わ<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>れ<sup>れ</sup>う<sup>ら</sup>い<sup>ふ</sup>う<sup>ら</sup>い<sup>ふ</sup>う<sup>ら</sup>

ま<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>も<sup>ら</sup>わ<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>の<sup>わ</sup>ら<sup>う</sup>す<sup>の</sup>ま<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>  
あ<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>の<sup>ま</sup>ら<sup>う</sup>す<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>

道<sup>みち</sup>因<sup>いん</sup>弁<sup>べん</sup>と志<sup>し</sup>深<sup>しん</sup>と

は<sup>道</sup>よ<sup>う</sup>ん<sup>ん</sup>う<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>の<sup>ま</sup>ら<sup>う</sup>す<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>  
ひ<sup>た</sup>る<sup>物</sup>の<sup>り</sup>七<sup>半</sup>は<sup>な</sup>り<sup>ま</sup>で<sup>て</sup>表<sup>の</sup>前<sup>の</sup>に<sup>よ</sup>  
ま<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>の<sup>ま</sup>ら<sup>う</sup>す<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>  
一<sup>し</sup>月<sup>げつ</sup>ま<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>の<sup>ま</sup>ら<sup>う</sup>す<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>  
わ<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>の<sup>ま</sup>ら<sup>う</sup>す<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>  
ま<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>の<sup>ま</sup>ら<sup>う</sup>す<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>  
ま<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>の<sup>ま</sup>ら<sup>う</sup>す<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>  
ま<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>の<sup>ま</sup>ら<sup>う</sup>す<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>  
ま<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>の<sup>ま</sup>ら<sup>う</sup>す<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>す</sup>

はつにこつそのまゝもねれどもひびく  
くおがゆれとあんのんれりりきつあるとぬ家  
殿右大臣と申し時人くは百首とりまけり  
隆信作と入るもさうらうらうらうらうら  
くても物さうらうをれふとさうらうらうら  
ありやうそのころ定忠の出家つらうと力  
のいふまゝのあつたはとてのわらうらうら  
吾郎の百首とみだたてさうらうらうら  
ゆまたんしあくまさうらうらなれそのまゝ  
床蓮たあつとつらありやうらうら  
まゝさうらうらあつたはとてのわらうらうら

はつにこつそのまゝもねれどもひびく  
くおがゆれとあんのんれりりきつあるとぬ家  
殿右大臣と申し時人くは百首とりまけり  
隆信作と入るもさうらうらうらうらうら  
くても物さうらうをれふとさうらうらうら  
ありやうそのころ定忠の出家つらうと力  
のいふまゝのあつたはとてのわらうらうら  
吾郎の百首とみだたてさうらうらうら  
ゆまたんしあくまさうらうらなれそのまゝ  
床蓮たあつとつらありやうらうら  
まゝさうらうらあつたはとてのわらうらうら

大補小侍後一たゆま双ふた事

ちくくあつたはとてのわらうらうら  
てさうらうらうらうらうらうら  
おめでありとゆれりりりりりりりりりり  
候はあつたはとてのわらうらうら  
まゝさうらうらあつたはとてのわらうらうら

これよりとれさらしとぞ報あしむるも一乃  
申しぬるありあつていふとくらんつていふと  
くもつていふありとくもつていふとぞ後  
は師いひ

後女に女を因にぬ人言のつていふ  
いふの由も後女の申すに因りていふ言因に  
あつていふ女をいふもいふに因りていふ  
もあり并れいふもいふに因りていふ  
ゆりも人のあつていふ後女に女をいふの言  
もいふに因りていふもいふに因りていふ  
いふに因りていふもいふに因りていふ

ありぬもいふに因りていふもいふに因りていふ  
いふに因りていふもいふに因りていふ  
いふに因りていふもいふに因りていふ  
いふに因りていふもいふに因りていふ  
いふに因りていふもいふに因りていふ  
いふに因りていふもいふに因りていふ  
いふに因りていふもいふに因りていふ  
いふに因りていふもいふに因りていふ  
いふに因りていふもいふに因りていふ  
いふに因りていふもいふに因りていふ



帝...  
 あり...  
 卯花月...

...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...





あり海への舟にこゝろをけりては  
 こそとしかたにみまほしきと  
 こそとしかたにみまほしきと  
 こそとしかたにみまほしきと  
 こそとしかたにみまほしきと  
 こそとしかたにみまほしきと  
 こそとしかたにみまほしきと  
 こそとしかたにみまほしきと  
 こそとしかたにみまほしきと

かくもまたその時の人々  
 かくもまたその時の人々



ゆへりりるもやいふありきんあんと世に  
まじり物おれはうの世にいふにふしむく  
まのまじりるかきまわりるもまじり人のから  
まじりるもやうらの人まじり

近代古神

あつ人向まじりる人の神まじりるもまじり  
まじり中まじりる人の神と神まじりるも  
まじり世の神まじりるもまじりる中まじり  
中達摩宗まじりるもまじりるまじりる  
あまじりるまじりる中まじりるまじりる  
神まじりるまじりるまじりるまじりる

家海キカイのまじりるもまじりるまじりる  
まじりるもまじりるまじりるまじりる  
まじりるまじりるまじりるまじりる  
まじりるまじりるまじりるまじりる

まるもくわひかりあめつらもやんがらうるこいあま  
 こころいふのみそびにほこまはりよなれど万葉  
 のこころをまていざん紙祇んこあななるんきしを  
 つぶつとらりまてくあかづらりすまてこい集と  
 えくはさりきつるまてみくこり申こらたこの  
 とこ花實<sup>ま</sup>ふにそかりて其ま海まらつが  
 見れらり後撰<sup>せん</sup>まらりここのち今母こり  
 けくされてのりつわもさりなれが方えさ  
 らしすまてとえさりすふとさささとせり拾  
 きのこあらりの神<sup>かみ</sup>ものかこいめあらくな  
 のこしこりらるまてわらつらむとすあか

けくさるらりこいどのら後指達のとこ今  
 とらりやうきまてけいの風とよすれらりや  
 その時のちささく人あてはれまうまてこりら  
 ち後指達まてこいあつまてらら御一葉  
 こころまてをいもあつ先達<sup>さきだち</sup>わこり侍一  
 金葉<sup>きんが</sup>い又わさるもけりかびんこて指<sup>さし</sup>  
 ちのちあかやうを詞花<sup>ことば</sup>千載<sup>せんざい</sup>大略<sup>おほしやく</sup>後指達の  
 風まてけいあれけいこりけさりりまてこり  
 けのこころあれ指達こりのらうのま海<sup>うみ</sup>に  
 ちまてひまてくちりよりのゆへに風<sup>かぜ</sup>  
 ちりつと詞<sup>ことば</sup>まにありてあは時<sup>とき</sup>まてこい

て行くるゆくゆくはうへつらとさうりく  
月と好いよせのみのらをもとまじはひたるたぐ  
ひと行くるるまじききつてはかたのこころひつ  
しして夢の中へいぬ海ののちかひひかりあり  
よらりてゆくゆくきんともさききんりこ  
ちらうゆくゆくあかゆくゆくまじりてきんり  
とあひひうれはうゆくゆく何情もわかちらうゆ  
くまねくもこれをも音とるゆくゆくあ  
らとがれし中へゆくゆくゆふ海なるいりん  
やとていんりてゆくゆくてきんりあ  
しとていんりてゆくゆくあ

そらうゆくゆくはうへつらとさうりく  
くるるあ送ありゆか又せみとうじてせとのかの  
そらうゆくゆくはうへつらとさうりく  
くあゆのき海乃世にゆくゆくされゆくゆくと  
ありてゆくゆくよ右風はあつゆくゆく悲言祈も海  
あゆゆくゆのつてゆくゆく也とれまらりて中なるあ  
まじきあゆゆくゆくゆくと行くゆくゆくてそのり  
あゆまのあゆわかれともまこしあゆゆくゆくはりゆく  
まじき上平とあゆまゆくゆくゆくまじきゆくゆく  
ゆくゆく情情。形政後恵登まじきあゆゆくあゆ  
まじきあゆの世の人まじきゆくゆくまじきあゆ  
たのまれ中まじきゆくゆくまじきあゆまじきあ

うがも、うがも、あそびあそびのうらやうにて、又、  
ともしやうに申す、申す、申す、申す、申す、申す、  
今のよう、今、今、今、今、今、今、今、今、  
の中、中、中、中、中、中、中、中、  
い、い、い、い、い、い、い、い、  
つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、  
方、方、方、方、方、方、方、方、  
の、の、の、の、の、の、の、の、  
び、び、び、び、び、び、び、び、  
も、も、も、も、も、も、も、も、  
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

うらやうあつる<sup>だ</sup>辨<sup>べん</sup>た<sup>た</sup>よ<sup>よ</sup>う<sup>う</sup>に<sup>に</sup>あ<sup>あ</sup>つ<sup>つ</sup>る<sup>る</sup>や<sup>や</sup>  
このうらやう、小園にて人の心合せのあつた  
たり、たり、たりの、たりの、たりの、たりの、  
よて、よて、よて、よて、よて、よて、よて、よて、  
ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、  
まん、まん、まん、まん、まん、まん、まん、まん、  
き、き、き、き、き、き、き、き、  
柴、柴、柴、柴、柴、柴、柴、柴、  
ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、ん、  
よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、  
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

この集よりつてなりたといふものもごくよく  
みつけたりと又あつたやう世ありといふのきれあつ  
たのをとまでいふともうさすやういふのせされば  
み集とが出ていふと世を一向のみかど紙を  
やりひくともうつと中じりいむくは中右のさ  
まにねきり稼いりあり同きいのみさなり祈  
りれつうしやうく又秀奇ともえづくさき  
中右の方の祈りもあむとくしと志も秀  
奇にかたがぶなり詞ありて風情ありと給  
といふも地なりとの祈りいづくうていづく  
とてつれいづくやうするのきぬさうしきり

うりてすくもいづくわたりて真ありて  
ゆあり同きもくくくくもくくつらま  
てうくもくくわらわらなりきよま  
くといわくもよつとくも勝勢とくく  
つらまも勝勢とくくも勝勢とくく  
いづくうくくもくくくくくくくく  
くくくく入る。中へ入るくく  
くくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくく

中...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...



の詮<sup>ツ</sup>りてしとらにわたりての餘情<sup>よ</sup>どしこり  
かゝる<sup>ク</sup>きかるといふまことりやあく  
し。榮よも<sup>艶</sup>なまなりぬれにまじりて徳亭  
しものいふまじりてたゞはれつたれ  
つらぬれとていふまじりてつらぬれ  
つらぬれとていふまじりてつらぬれ  
たのみこりていふまじりてつらぬれ  
まじりていふまじりて思ふまじりてつらぬれ  
らまじりていふまじりてつらぬれ  
らまじりていふまじりてつらぬれ  
のいふまじりていふまじりてつらぬれ

とつらぬれいふまじりてつらぬれ  
いふまじりていふまじりてつらぬれ  
たのみ物まじりていふまじりてつらぬれ  
らまじりていふまじりてつらぬれ  
まじりていふまじりてつらぬれ  
らまじりていふまじりてつらぬれ  
らまじりていふまじりてつらぬれ  
らまじりていふまじりてつらぬれ  
らまじりていふまじりてつらぬれ  
らまじりていふまじりてつらぬれ  
らまじりていふまじりてつらぬれ  
らまじりていふまじりてつらぬれ



月やあなまやじうれらるるね

我が日らうりしりかありて

こゝろを餘情<sup>よせい</sup>うらりうらりわききしこころ

うらうらひくゆき又ささる風情のみなれわら

とこころはきこみしるれどものうらすこころ

わらうれはくこの酒とらさるまゝもあつし

本工<sup>ほんこう</sup>の弁<sup>べん</sup>一<sup>いち</sup>冊<sup>さつ</sup>

うらうらくはれ入はるるまうせり

おふかみより秋のくらぐれ

こころはうらみよんはゆきしりしりしり

細<sup>こま</sup>とつとをうらりしりしりしりしりしり

わらうれはくまゝあつる人のこころ

月さゆらうらりの人よあつれあり

こころはうらみよんはゆきしりしりしり

こころはうらみよんはゆきしりしりしり

てあつるこころはうらみよんはゆきしりしり

うらあつてあつてあつてあつてあつてあつて

さかえんよんはゆきしりしりしりしり

うらあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつて

うらあつてあつてあつてあつてあつてあつて

うらあつてあつてあつてあつてあつてあつて



ふりて来たすべしとてじきぬはのの本じぬ  
そのぬ野への葉をばまねれつらて花のなき  
とわらわひびきとてのつらりつらりあふと  
やとくしつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり  
ゆめありつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり  
ゆめとわらわひびきとてのつらりつらりつらりつらりつらり  
つらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり  
つらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり

あまのつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり  
つらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらりつらり

一もいふはさかきしほのうらみ  
あはれもつとせうとあはれ

あはれもつとせうとあはれ

あはれもつとせうとあはれ

あはれもつとせうとあはれ

一もいふはさかきしほのうらみ  
あはれもつとせうとあはれ

あはれもつとせうとあはれ  
あはれもつとせうとあはれ  
あはれもつとせうとあはれ  
あはれもつとせうとあはれ  
あはれもつとせうとあはれ  
あはれもつとせうとあはれ  
あはれもつとせうとあはれ  
あはれもつとせうとあはれ  
あはれもつとせうとあはれ  
あはれもつとせうとあはれ

あはれもつとせうとあはれ  
あはれもつとせうとあはれ  
あはれもつとせうとあはれ  
あはれもつとせうとあはれ

らふまの夜わたくまをたのま  
あふらとわさくらにらん  
まのいほさくらわさくら  
夕なれにむすのむすも  
らふまの夜わたくまをたのま  
あふらとわさくらにらん  
まのいほさくらわさくら  
夕なれにむすのむすも  
らふまの夜わたくまをたのま  
あふらとわさくらにらん  
まのいほさくらわさくら  
夕なれにむすのむすも

はふらとわさくらにらん  
まのいほさくらわさくら  
夕なれにむすのむすも

取右前

一まの夜わたくまをたのま  
あふらとわさくらにらん  
まのいほさくらわさくら  
夕なれにむすのむすも

まのいほさくらわさくら  
夕なれにむすのむすも

らふまの夜わたくまをたのま  
あふらとわさくらにらん  
まのいほさくらわさくら  
夕なれにむすのむすも



とあん侍

假名書事

右人等がまいたのうくもる席は古今あつか  
の席と申す日記にゆかつかんのことと申す  
あしぬわなれとして伴俣物活あしびは後撰  
の并のいとほまのぬお終の源氏よりすま  
らりのあしぬわなれと申すかひらくくへき也  
りつと申すかましくまかのことと申すわいしや  
とらあり心のともかきりなづかあやりしを  
りきくらううなれと申すいままかよてかくまけり  
らりてと申す又字入抄に又字のつとほ

とこみととびみかともてわく也万葉より新  
撰といふとわたり右今席より善撰とい  
きやとわくたれくみかとの純なり又いとこの  
わたりとりとて對とてわくぬくび  
けりよらりくるまらりとかく對とてわ  
くりよはまは真名として假名のわいり  
わすすこれわらうさ附の申之が右今席  
たよあき書水よりまじうりたよとやうり  
えさくぬまらりとかをのつうらうらうら  
とねくたのほそとつうらうら○のな  
り



あつたよふに申す日よあひくれはるらん  
まらまらあつたよふに申す日よあひくれはるらん  
又月よあつたよふに申す日よあひくれはるらん  
月よあつたよふに申す日よあひくれはるらん

あつたよふに申す日よあひくれはるらん

あつたよふに申す日よあひくれはるらん  
あつたよふに申す日よあひくれはるらん  
あつたよふに申す日よあひくれはるらん  
あつたよふに申す日よあひくれはるらん  
あつたよふに申す日よあひくれはるらん

あつたよふに申す日よあひくれはるらん

あつたよふに申す日よあひくれはるらん  
あつたよふに申す日よあひくれはるらん  
あつたよふに申す日よあひくれはるらん  
あつたよふに申す日よあひくれはるらん  
あつたよふに申す日よあひくれはるらん  
あつたよふに申す日よあひくれはるらん  
あつたよふに申す日よあひくれはるらん  
あつたよふに申す日よあひくれはるらん  
あつたよふに申す日よあひくれはるらん  
あつたよふに申す日よあひくれはるらん

あつたよふに申す日よあひくれはるらん

ふゆめたるはなをのかりたるはなをみよ  
けりてはなをかりてはなをみよ  
のかりたるはなをみよ  
二葉大跡母のれはなをみよ  
まうりてはなをみよ

頼実がすまじゆ

たまた耐くらく人れ実いふ  
わすれはなをみよ  
よいりりしすりその後年とつ  
まひりりしすりその後年とつ

わすれはなをみよ  
まひりりしすりその後年とつ

小野小町事

わすれはなをみよ  
まひりりしすりその後年とつ

小野小町事

わすれはなをみよ  
まひりりしすりその後年とつ

とらへく 雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
あつらひ 雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
ありし 雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
たつた 雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
ら 雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
のわき 雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
ど 雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
ふむ 雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
れわき 雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
か 雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
あつらひ 雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ

雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ

雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ  
雲のうらみ 雲のうらみ 雲のうらみ



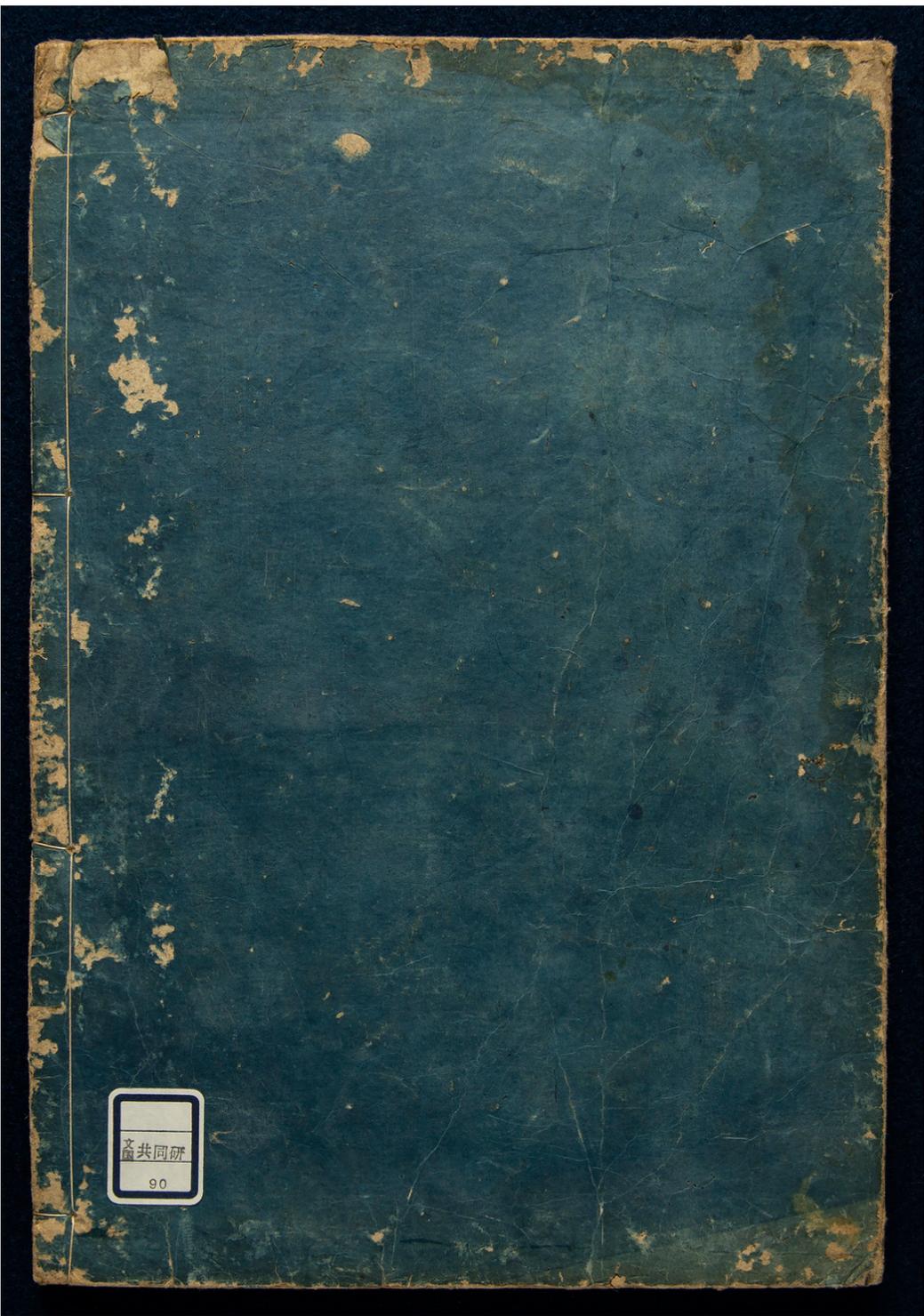
さういふひびのりらひのきをこゝろわり賞（しょう）むらりい  
むわりちのわれは古集のあたりにみかりて  
ぬいといわづぬいふびさねは古集をうら  
ひつよまわつて河の風のこゝろなりやゆへかある  
あつわさの古集の中へぬくのこゝろこと  
む一編あつてどこの中へいふの世に用ひ  
るふつとあつていひて中へいふてか門にうの  
神とあつてひびのこゝろのいふ条をおもひにあり  
かの後撰のうゝこれふらある撰集よりそゝ  
ともわつてまゝに註を費せさば年々のか  
きつかりあるゆへにその表（ひょう）つてあるが

いふはゆへに決（つぎ）にふつといふにやせつひ  
ある井（い）せられはまゝつていふはこゝろ  
うすまゝのあつていふに神といふは  
きつていふとつていふにその字を略（りやく）して  
やといふといふはまゝといふにやうなるに  
これを後撰の感をかりていふにありて  
いふといふにあり

鴨長明抄

徳富仁彦

中略  
元亨三年五月十日於之我殿



文共同研

90